

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 27, No. 4 神奈川県立生命の星・地球博物館 Dec. 2021



たらず
**水中に佇む
繁殖期のナガレタゴガエル**
Rana sakuraii

写真: KPM-NQA 144 B
神奈川県足柄上郡山北町
2020年2月9日 一寸木 肇 撮影

まつもと りょうこ
松本 涼子 (学芸員)

体の側面から後肢にかけて、皮膚がブヨブヨとしたひだ状に広がったこの奇妙なカエルは、ナガレタゴガエルの雄（写真上）と雌（写真下）です。成体の体長は約40～60 mmで、雌の方が雄よりも少し大きくなります。普段からこのような姿をしているのではなく、繁殖期（2～4月ごろ）になると変身します。皮膚がひだ状に伸長することで、体の表面積を増やし、水中での皮膚呼吸をより効率的にしていると考えられています。タゴガエルとよく似ていますが、ナガレタゴガエルの

方が、より水かきが発達しており、溪流での生活に適しているようです。

普段、本種は低山地の森林帯に生息していますが、秋になると雌雄ともに溪流に集まり、水中の石の下で冬を越します。水温が4℃以上になると活動開始です。水流に乗って繁殖場所となる淵に集まり、雄はググググ・・・と鳴きながら雌が現れるのを待ちます。本誌が発行される12月、ナガレタゴガエル達は繁殖期に備え、冷たい水の中で春を待ち望んでいることでしょう。